

「ザクロの花(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもの頃、週末や夏休みは、埼玉県小川町の祖父母の家で、よくいとこたちと過ごしていた。比企丘陵の麓に位置するこのあたりは、その頃も今も自然が豊かで、ザリガニ釣り、虫採り、蛍狩りなど、楽しみが多かった。



(従妹と私。小学校1年生の頃)

祖父母の家の近くに自性院(じしょういん)というお寺がある。戦争中、祖父母や母が住んでいたお堂である。その脇に小さな神社があって、鳥居の横にザクロの木があった(今でもある)。



秋になるとそのザクロはたくさん実をつけた。従妹にせがまれて、私が木に登って実をとったのを覚えている。両手で持ちきれないほど採れて、上着を脱いで風呂敷がわりにして、持ち帰ったものだ。割れた実から覗く、ルビーのような美しい粒の、甘酸っぱい味が今でも忘れられない。



私の勤務する小学校の玄関にもザクロの木がある。イチヨウ並木の蔭であり日当たりが良くないのだが、今の時期にはたくさんの花をつけている。大学構内にはアジサイも多い。ちょうどアジサイが見ごろになると、ザクロの花も満開になる。残念ながら児童用門扉ではなく、教職員用門扉の脇なので、子どもたちにはあまり気づかれない。



通常ザクロは、がくも花弁も6枚なのだが、このザクロは八重咲きの品種のようだ。植物によっては八重咲きの品種は結実しないこともあるが、このザクロは秋に実をつける。ちゃんと受粉しているのだろう。私はこのザクロの花の構造に興味を持った。